

		考え方	出席想定	収支予測	翌期繰越金	議論すべき点
案1	従来の方式で開催する（会費8,500円、若手6,000円、現役招待）	楽友三田会として大きなイベントであり、かつ現役生との交流の場として、最近の事情はあるが開催とする	会員180名、招待者40名	▲21万円	36万円	①現環境下、コロナ感染を拡大する恐れのある会合を開催することの是非（従来の参加者の主流を占める年配者のネガティブな考え方の中で開催するのか） ②（100名の参加ならまだしも）50名程度の会で開催する意義 ③繰越金が枯渇し（2022年新年会は実費で対応するとしても）後年度の新年会会計に余裕なし
			会員100名、招待者50名	▲42万円	15万円	
			会員50名、招待者50名	▲49万円	8万円	
案2	従来の方式を簡素化して実施する →ホテルへの実施の可能性の確認が必要だが「ランチボックス+軽飲料（アルコール抜き）」で飲食代も会費も引き下げる（会費4,000円、現役招待）	楽友三田会の大事な会の開催を主眼とするが、コロナ感染リスクも考慮し、感染リスクが少ない形式で開催する	会員50名、招待者50名	▲41万円	16万円	①簡素化して開催するとはいえ、大人数が集まることには変わりなく、感染対策上実施することの是非 ②案1と同様、従来比参加者が大幅減が想定される中での実施する意義
案3	4月以降に延期	現時点では1月の状況が見通せず、いったんは延期する		延期に伴うキャンセル料は発生しない見込み（ホテルへの確認要）	57万円	①当初開催日の3か月前までには決定必要（10月23日）→一般的にはキャンセル可能期間内に決めないで応じてくれない？ ②延期した会（例、4月開催）の開催の可否の決定が再度必要 ③延期開催の会の開催主旨の明確化が必要（従来は総会を兼ねる会、延期した会は懇親会の色合いが増す、加えて例年夏に実施している現役との交流会との兼ね合い・位置付けをどうするか）
案4	今年度は中止	現時点で1月のコロナ収束は想定不可能で、開催の判断は難しい←従来の参加層の抵抗感が相当強い（5期、15期の意見）		キャンセル料…最終見積165万円の20%（33万円）→最低限まで引き下げる交渉を行う（10万円未満に収まればベターか？）	24万円？	①当初開催予定日の3か月前までに通知し、金額交渉が必要（10月23日）